

心室中隔欠損

心室中隔欠損とは？

心室中隔欠損は、左右の心室を仕切る心室中隔に穴があいている疾患で、先天性心疾患の約20%を占め、最もよく認める先天性心疾患です。左心室から右心室に血液が流れ(短絡)、肺の血流量は増大します。左心房と左心室に戻る血液量も増大し負担(容量負荷)がかかります。肺高血圧を合併すると、右心室にも負担(圧負荷)がかかるようになります。

どのような症状が起きますか

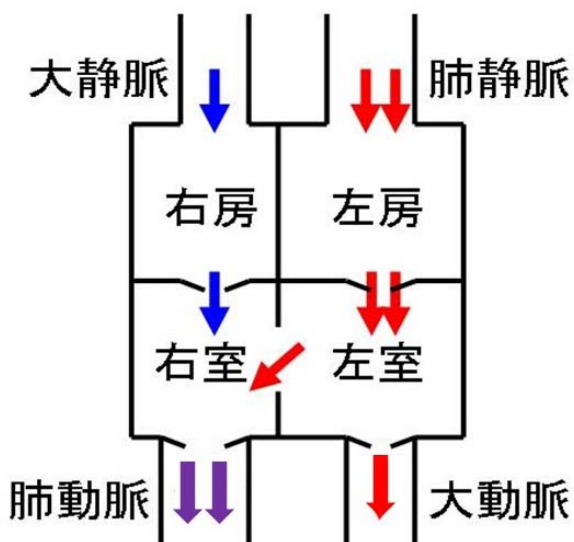
穴が小さければ心雑音があるのみで無症状ですが、穴が大きいと血液の拍出が不十分となり(心不全)、哺乳・体重増加不良、多呼吸、呼吸困難などの症状がみられるようになります。

どのように診断しますか

胸部レントゲン写真、心電図検査を行い、心エコー検査で確定診断ができます。欠損孔の位置と大きさ、血行動態、合併症の精査を行います。手術の必要性を決めるときには、心臓カテーテル検査を行うこともあります。

どのように治療しますか

心不全に対しては利尿剤などの薬物治療を行い、改善しなければ手術が必要です。心室中隔欠損は、部位によっては、自然に縮小する傾向があり閉鎖することもあります。一方、大動脈弁の近くに欠損孔がある型では、縮小しにくく大動脈弁が変形して閉まりが悪くなること(閉鎖不全)があります。大動脈弁閉鎖不全を伴う場合も手術が必要になります。



三浦 大：心室中隔欠損.

三浦 大 編：はじめて学ぶ小児循環器.

P 40, 診断と治療社, 2015. より改変して引用.